

第7回名古屋競馬経営改革委員会（平成25年7月26日）議事録

出席委員 全員出席（7名）

（座長）

ただ今から、第7回名古屋競馬経営改革委員会を開催します。

本日の委員会は、前回お諮りしたように公開で行います。3名の傍聴希望がいらっしゃいますのでご報告します。

今回の委員会ですが、これまでの議論を踏まえまして、当委員会の報告書の取りまとめを行います。昨年4月12日に第1回委員会を開催しておりますけれども、それ以降、委員のみなさんのご協力の下で検討を進めてまいりました。最後までどうかよろしく願い申し上げます。

それでは、お手元の次第にしたがって進めてまいります。

始めに、各構成団体を代表いたしまして、愛知県農林水産部、中野部長から、挨拶をお願いします。

（農林水産部長）

構成団体を代表いたしまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

本日は、お忙しい中、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。

今、座長さんからお話がございましたが、昨年4月に第1回委員会を開催して以来、本日で7回目の委員会となりました。この間、委員の皆様には、大変熱心に、ご議論・ご検討いただきましてきたことにあらためて感謝申し上げます。

また、後ほどご報告をさせていただきますが、最近の競馬組合の経営状況を見ますと、JRAとの相互発売が進み、経営にも一定のプラス効果が出てきている状況でございます。

本日は、委員会としての報告書を最終的にとりまとめていただく検討をお願いするものであります。報告書につきましては、前回の委員会で委員のみなさまから頂戴したご意見を基に、奥野座長・永柳委員・小川委員のお三方で案をご検討いただき、その後すべての委員のみなさまからも再度ご意見をいただき、取りまとめたところでございます。

本日は、報告書の取りまとめに向けまして、忌憚のないご意見をいただきますようお願いを申し上げまして、開催に当たりましてのあいさつとさせていただきます。

（座長）

本日の委員会の進め方でありまして、委員会としての報告書を取りまとめることとなります。報告書の内容に入ります前に、「平成25年度愛知県競馬組合第1四半期経営状況」につきまして、競馬組合から報告していただき、続きまして、「名古屋競馬の経営改革に関する検討結果報告書（案）」を事務局から説明いただいた後、質疑応答、意見交換を行い、最終的に委員会の報告書として決定したいと思います。

委員会は、3時50分くらいに一旦区切りを付けまして、提言が決定しました後で、

午後4時頃から、構成団体の代表者として大村知事に提出したいと思います。

そういったような手順でやってまいりますので、ご承知くださいますようお願いいたします。

議題（1）平成25年度第1四半期経営状況について

（座長）

それでは、次第に沿って進めてまいります。

議題1、「平成25年度愛知県競馬組合第1四半期経営状況」について、競馬組合から説明をお願いします。

（競馬組合）

経営状況の説明に先立ちまして、この場を借りて、組合職員総参加で5月にまとめました、名古屋競馬場の経営の基本方針であります、「名古屋競馬ルネッサンス宣言」についてご説明します。

まず、「1.お客様第一」競馬はエンターテイメントに関わるサービス業であることの深い理解。「2.一人ひとりが経営者」徹底したコスト削減と収益の追及。「3.全員一丸」競馬組合の職員のみならず、すべての競馬関係者の総力の結集であります。

この経営方針の3本の柱に基づきまして、経営再建に取り組んでまいり所存であります。

（資料1 説明）

（座長）

まだ期が終わったばかりで、それほど分析する時間がなかったのではないかと思います。これ（売上が伸びていること）は全国的な傾向ですか、それとも名古屋競馬として特に注目されることがあったとか、特に関連する行事があったとか、そういう理由なんでしょうか。

（競馬組合）

先ほど、IPATについてご説明しましたが、昨年と較べて増加した売上の67%がIPATによるものです。農水部長のあいさつの中にもありましたように、JRAとの相互連携がこの期において効いてきたと思います。

（座長）

一人当たり購買額も増えているのですか。

（競馬組合）

昨年同期と較べて約1,000円ほど増えており、一人13,000円です。

議題（２）名古屋競馬の経営改革に関する検討報告書について

（座長）

それでは、議題の２に移らせていただきます。

「名古屋競馬の経営改革に関する検討結果報告書」についてであります。概要説明を事務局からお願いします。

（事務局）

（資料２ 説明）

（座長）

ありがとうございました。

ご案内のように、委員会と作業部会で、いろいろとご意見をいただきまして、売上振興策、取り組むべき方策、そういったものを織り込んで、報告書にまとめたものがあります。

また、第４章「競馬事業への提言」でありますけれども、前回委員会で議論していただきました内容をまとめまして、作業部会で確認して、検討したものであります。

本日は最終的に報告書を決定することを目的としていますので、こうした議論を踏まえまして、内容的なご確認をいただければと思います。

ご意見がありましたらどうぞ。

（意見なし）

何回か確認させていただいてきましたので、無さそうですね。

どうもありがとうございました。特に修正点は無いようですので、この報告書案を決定稿とさせていただきます。

それでは、本案を決定稿といたしまして、構成団体に提出することにいたします。

本日の最終委員会の議事はすべて終了いたしました。

昨年４月からでありますから、１年以上であります、大変長期間に亘りまして、ご熱心に議論をいただきました。どうもありがとうございました。

後ほど愛知県知事へ報告書を手渡したいと思っております。

これで、司会を事務局へお返しいたします。

（事務局）

奥野座長さん、委員の皆さまどうもありがとうございました。

このあと、午後４時に知事がまいります。

皆さんには、今から４時頃まで休憩していただき、その間に事務局において、ただいま確定した報告書から（案）を取ったものを準備させていただきます。

なお、机のレイアウトを変更させていただきますので、恐れ入りますが、手荷物を椅子の上におまとめいただきますようお願いいたします。

それでは、午後4時までにお戻りいただきますよう、よろしくお願いいたします。

(休憩)

(事務局)

まず始めに、先ほど決定いたしました経営改革に関する報告書を、委員の皆さんを代表して奥野座長さんより、知事に提出していただきたいと思っております。

それでは、奥野座長さん、大村知事、机の真ん中へご移動をお願いいたします。

(移動)

(座長)

名古屋競馬の経営改革に関する検討結果を取りまとめましたので、報告します。

(報告書手渡し)

(事務局)

ありがとうございました。お席にお戻りください。

それでは奥野座長さんから報告書についてご説明をお願いいたします。

(座長)

私ども委員7名は、名古屋競馬の経営改革のために1年3か月に亘りまして、検討を重ねてまいりました。この間、名古屋競馬場、弥富トレーニングセンターの現地調査、競馬関係者との意見交換等も行いまして、各委員からは経営に関する様々な提案や、時には大変厳しい意見も申し上げてきたところであります。

当委員会の役割であります名古屋競馬の経営改革につきましては、報告書の中で、収支均衡を保つための経営管理体制の構築、固定費の削減、新たな収入源の確保など、民間企業なら当たり前のことから、さらには名古屋競馬の魅力をさらに発信する手法まで、幅広く提言をさせていただいております。愛知県競馬組合としてこれらの内容にしっかりと取り組んでいただきますようお願いいたします。

また、8年前にも検討して今回が2回目ということもありますので、存廃基準についての提言もいたしております。累積赤字がこれ以上増えることは許容できないことでありまして、単年度実質収支の黒字化を継続していくことが存続の道であります。提言で申し上げた各種の経営改革をしっかりと行うことにより、実質収支を黒字化することは十分可能であると考えております。それでも今後赤字となるようなことがありますれば廃止を決断すべきと提言させていただきました。

名古屋競馬を今後も継続するために、本報告書を参考にしていただきまして、競馬関係者は最後のチャンスとして、一丸となって経営改革に取り組み、黒字を継続していただくことを委員一同期待しております。以上でございます。

(事務局)

ありがとうございました。それでは、今回の委員会検討を終えた所感などを、委員の皆様から、一言ずついただきたいと思います。順番でお願いします。

(委員)

最初に申し上げたいのは、改革の実行ではないかと思っております。経営改革に関する提言の実行はもちろんですが、競馬関係者のみなさん方、一体となりまして、廃止にならないように、創意工夫とか、発想の転換でもって、ぜひ改革を実行していただきたい。以上でございます。

(委員)

平成26年度から払戻率による収益改善が見込まれるわけですが、これは法律改正による効果というものでございます。今回は、これ以外に自助努力をどこまで進めるのかを求めています。平成25年度の黒字化という払戻金の改正以前の結果が自助努力になります。平成25年度の結果を厳しく見ていくということが、この提言の骨子の一つだと思っております。

幸い、四半期の決算がインターネット利用の増収で比較的いい状況だと聞いておりますけれども、まだまだインターネット利用については、増収の余力があるものと思っておりますので、こういったような増収の期待できる分野に注力していただいて、25年度をしっかりと黒字にさせていただくということが、再建のポイントだと思っております。

(委員)

検討会の中でたくさんの論点があったかと思っておりますけれども、基本的には、競馬法改正に伴う払戻率自由化の影響をどう見積もるかというところに、検討時間を割いたと思います。やってみないとわからないというところがあるんですけども、最終的なシミュレーションとしては、少なくとも数年の間は収支黒字化ができるであろうという判断に至ったわけです。この数年間の黒字化できる期間に、ぜひとも、本報告書の中で提案している様々な経営改革の案を実行していただきまして、中長期的にも持続可能な名古屋競馬に再建を期していただきたいと思っております。

(委員)

本来の目的から言いますと、止めなくてはならなくなったという時にですね、いつも私たちは、これに関する、競馬組合の方とか、競馬関係者が多くいますと。ここへの対応があって止められない、というのを理由にすることが多いと思うんですね。私は今回も言わせていただきましたが、競馬関係者の方が一丸となって取り組むということについて、もう少し慎重にやっていただけないかなというふうに思います。目指すべきは、みなさんの意思統一の中にもありましたが、新しい文化の創造というものを加えながらやっていきましょう、ということがありましたので、これには果敢に挑

戦して欲しいと思っています。

それと、やっていくにしても、やっぱり県民の方とか市民の方たちの理解が必要かと思っています。そういうようなことへの、みなさんの一丸となった取り組みというものはどういうものであろうかというものを、きちんと考えていくということが、これから大事じゃないかなと思います。

一番大事なものは、競馬に対するイメージアップをどのように図っていくかということであるように思います。ですので、イメージは内外にとって大変大事なことでありますので、そういうようなことについてアピールをしていただきたいということをお願いしたいと思っています。

(委員)

収益改善というところからいたしますと、外部の目から見ますと、経費削減という面で、厳しい意見を述べさせていただいたところは否定できないところがございます。とりわけ、人件費などにつきましても意見を述べさせていただいたところがございます。ただ、現在のところを見ますと、インターネットの収入増というところが、非常に期待できる場所ではありますが、こういったことに甘んじることなく、この名古屋競馬場で、関係しておられる方々が一丸となって、この問題に取り組み、収益改善に向かって、まい進していただくという、言わばエールを意見書の中に盛り込ませていただいたというふうに個人的には思っております。十分にご参考にしていただければと思います。

(委員)

今回の提言はそう甘いものではないと思います。かなり厳しいところも含まれております。累積赤字という現実と、あとは雇用問題。当然、笠松もリンクしてくるんですが、万が一廃止になった場合の、馬の処分の問題。それから、間接的ながら、財政に寄与されたファンの方々、その思い。そういうものもリンクしながらずっと考えて、その辺のせめぎ合いが各委員にあったと思います。そういうものが今回の提言の中に入っていると思いますので、ぜひ実行をよろしくお願いしたいと思っています。

細かなことで言いましたら、福祉の、たとえばホースセラピーの話なんかは、提言の中でもさせていただきましたので、今後そういうことも検討の中に入れていただければと思います。

(座長)

みなさんの話に尽きておまして、委員会での議論の様子まで含めてお話をいただいたというふうに思います。

今日の委員会の冒頭で、競馬組合から第1四半期の経営状況について、報告がございました。計画比では107.5%、対前年比で115.5%と、出足は好調でございます。

しかし、この理由は何なのか、経済の上向きのところが影響しているのか、一人当たりの購買額も増えているようでございますので、そういったところもあるのかなと思いますけれども、決して楽観視できる状況ではないというふうに思っております。

て、しっかりと収支管理を行っていただきたいと思います。

それから、他の公営ギャンブルと異なりまして、先ほど委員からもご指摘がございましたが、競馬関係者は非常に大勢おられます。仮に廃止となりますと、大きな影響を与えますので、そういうことにならないように、関係者の方々は一丸となって再生に取り組んでいただきたいというように思っております。

(事務局)

それでは、知事からあいさつをお願いします。

(知事)

委員の皆様におかれましては、名古屋競馬の経営改革委員会に、昨年4月から、精力的にご議論をしていただきまして、今日、この報告書をまとめていただいたことに心から感謝を申し上げたいと思います。

いろいろな角度からご議論をいただきました。ただいまのご発言の中にもありますように、改革の実行、自助努力、25年度の結果をしっかりと見ていこう、ネットによる増収、新しい文化の創造、経費の削減、それからホースセラピーなどなど、ありとあらゆる面から、ご意見をいただきましたことに、構成団体を代表して厚く御礼を申し上げます。

私どもといたしましては、今日いただきましたこの報告書の内容を真摯に受け止めさせていただいて、まずは、今後の進め方につきまして、私ども愛知県と、名古屋市、豊明市、構成団体におきまして、意思統一をしっかりと図っていきたいと思います。

また、ご提言いただきました経営改革の方策につきましては、早速、競馬組合に工程表を作るということを指示したいというふうに思っております。工程表を作りまして、まずは、具体的にやれることから実行していくということで進めていきたいと思っております。

そして、工程表に基づいて具体化してきたものを、進捗状況ともどもチェックをして、なんといたしましても、決して赤字に陥ることが無いよう、競馬組合の経営改革にしっかりと取り組んでいきたいと思います。

今日いただきましたこの提言をしっかりと受け止めさせていただきまして、名古屋競馬の経営改革を着実に進めていきたいと思っております。

本来の公営ギャンブルのあり方からいたしまして、これ以上の累積赤字の拡大はあってはならないことだと思っております。そのようなことが絶対に無いように、関係者一同努力をしていきたいと思っております。

また、引き続き、先生方には、そういう目でしっかりとチェックをし、フォロー、アドバイスをお願いできればと思っております。

今後ともよろしくお願いを申し上げまして、今回の報告書をいただきました、本当に精力的に検討をいただきましたことに対しまして、お礼とさせていただきます。ありがとうございました。

(事務局)

これもちまして、名古屋競馬経営改革委員会は終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。